

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200245		
法人名	医療法人社団醫光会		
事業所名	グループホーム野ばら		
所在地	群馬県高崎市矢島町21		
自己評価作成日	平成22年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成22年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、利用者様がホーム内だけでなく、なるべく外に出る事の楽しさを味わって頂くようになっています。地域交流である「地域のゴミ拾い・廃品回収の参加・いきいきサロン・子供サロン」を中心に地域の方々との関わりを大切にしています。また、毎月のイベントでは「小旅行・紅葉狩り・花見」など季節感を味わって頂くために、イベントを計画しています。今後はイベントだけでなくホーム内で楽しめるアクティビティーをしていき、利用者様と楽しむ事を目指していきたいと思っております。その他に、法人内に病院がある為、医療面に関しても充実しており、状態の変化時など、医療従事者との連携により、利用者様の体調悪化の早期発見やその後の対応を速やかにしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このグループホームは1つの家族として、職員が息子であったり、時には孫であったりという関係を大事に、同じ場所で過ごしているという生活感をもって支援している。特に力を入れていることとして、夜間の入浴支援を実践している。また、入居時に家族にたんす等の馴染みの家具と家族の写真を持ってきてもらうという具体的な働きかけを行い、生活の継続の支援としている。排泄の自立者が多いが、ホーム内は臭いが無く、適切な支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見慣れた自然環境の中で優しさに出会い・やすらぎに出会い・そして生きがいに出会い・その人らしさを大切にできるホームを目指します。と、独自の理念をスタッフの目の届く休憩室に大きく掲げている。	管理者・職員は地域の人々が気軽に訪問してくれるグループホームを目指している。グループホームや認知症を理解してもらうためにもホームを見てほしいと思っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域で実施している、「いきいきサロン・子供サロン・廃品回収」の参加を適宜行っている。	管理者の系列グループホーム時代からの交流としてサロンに通っているが、今後は自治会に入っているのも、廃品回収のみならず、近所のイベントや回覧板を回してもらえるようにしたいと願っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方々に対して、話し合いを持つことができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議では、市町村・地域の方々・御家族の方々と話し合いを持ち、そこで出た意見を参考にサービスの向上に生かしている。	2ヶ月に1度定期的開催されている。市・民生委員・利用者・家族・法人代表が出席し、現状報告や事故・感染症について報告している。案内については家族全員に声をかけ返事をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外の連携としては、ホーム内で事故が起きてしまった時などに、市町村へ行き報告や連携をおこなっている。ご家族様からの苦情は今のところないため、報告をせず。	介護保険申請代行手続きや法人主催の認知症サポーター養成講座を開き、地域の方々へ認知症への理解に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	玄関の施錠がされている。法人としてはホームの現状等によりホームの判断に任せている。家族等には玄関の施錠についての話をしている。法人内の研修を受けている。	職員・家族等と施錠することでの弊害とリスク等を話し合い、身体拘束を行わないケアへの実践と理解を進めて行ってほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	時々、「○○しては駄目」と言うてしまうことがある。その他の虐待についてはスタッフ一人ひとり注意を払って防止につい止めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用についての研修会などの参加に過去一年間で参加していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様と契約をする時は、施設の案内や、グループホーム役割などを説明し、契約時に必要な書類すべてに説明をしている。その時、不満や疑問点も聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の自己主張を大切にケアを実施している。また、御家族様の意見は面会時などで、聞くようにし、その意見に関しては、極力ケアに反映できるように努力している	春・秋には家族参加型の外出を実行し家族と利用者との交流の場としている。家族との距離も近くなっている。利用者の外出時の表情についてもよく意見が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議などを開催し、スタッフの意見を聞くようにしている。そこで話し合った内容などを運営者などに、議事録として報告している。	法人として託児所が完備され、有給や代休・研修を業務の一環にする場合もある。定例会議時や個人的に管理者が意見を吸い上げ、上司に内容を報告する等で提案を聞く機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所目標(数値目標・非数値目標)や個人の目標管理シートをもとに実績評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、教育委員会があり、認知症についてだけでなく、事故対策や感染の研修など、毎月にわたり実施している。OJTでは利用者様に対して日々どのように接していかなければならないか模索している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ストレスを軽減させるため、コミュニケーションの工夫はなされている。また、レクリエーションなども定期的の実施しているが、参加者がなかなかいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がグループホームを利用するにあたり、実際にこちらから足を運び、直接本人に会い、面接をさせて頂き、その時、不安や要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、契約前、申込時に必ず当事業所に足を運んで頂き、ホームの案内後、家族と面接をして、不安や要望などを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所が満床である場合、他のグループホームの紹介や、ショートステイなどを紹介はできているが、知識がないためそれほど出来ていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時々スタッフ目線になってしまう時もあるが、利用者様の目線に立ち、喜怒哀楽に関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、必ず、利用者様の現状報告をし、家族の意見を参考に本人を支える努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの関係を持った方の情報がなかなか取り入れることができていない。	入居時に使い慣れたたんすや家族の写真を持ってきてもらい、生活の継続を支援している。手紙や電話の支援や友人の来訪や入居前のショートステイに出かける等で馴染みの人や場所の継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が好きな方、一人での好きな方など、個々にたくさんの個性を大切に、スタッフが仲介に入り、利用者様同士の関係を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、開所されてから1名契約が終了となったが、継続的な関わりを必要としない利用者や家族のため、関係を断ち切っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリングにより、その方の今のニーズを受け止められる限り、それをもとにケアプランに反映している。しかし、時々スタッフ目線になってしまうこともある。	行動や様子を観察してその行動には何か理由があるのではないかという視点で職員が話し合い、モニタリングやケアプランに繋げている。買物に行きたい・外出したいという気持ちを大事にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生きてきた生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握し、ケアプランに反映しているつもりが、多々な生活歴を把握しきれしていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護がより必要な利用者様に対しては、関わる時間が多く総合的に把握する機会はあるが、介護あまり必要としない利用者様に対しては、なかなか把握しきれしていない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向は大切にプランを作成できているが、家族からの意見をなかなか聞くことができない。また、他職種との話し合いができていない。	職員が話し合った本人の意向や課題を月に1度のモニタリングを参考に、変化があったときにはその都度と3ヶ月に1度の介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日のスタッフ人数が少なく、言葉の伝達はなかなか難しいため、個々に記録やノートを作成し、変化や連絡事項を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急性のある要望に対してはすぐに対応できるように心がけているが、緊急性の低い要望は柔軟に対応できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向に応じて地域資源を活用できていないが、利用者様が離園された時、警察などを協力して頂いた。消防訓練なども、消防署のみで地域資源を活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の意向が難しい場合、家族の希望大切にかかりつけ医との事業所の関係を築きながら、その時に応じた適切な医療体制が整っている。	通院や緊急時に対応したかかりつけ医が家族の了承の基、月に1回往診等の支援をしている。歯科受診は基本的には家族対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に、病院があるため、その時の利用者様の状態に応じ報告・連絡・相談をし、利用者様に支援を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の病院・ホーム付近の病院に関しては、そうした場合に備えて連携しているが、他の病院に関しては、なかなか連携が図れていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に関してはそれほど、検討や準備ができていない。	重度化・終末期にはどうしたいかというアンケートを取ったりしながら家族の意向の確認に繋げている。終末期に向けた指針の作成はまだない。看取りの経験もない。課題となっている。	病院かホームでの看取りかという家族の思いに添えるように、ホームでできる事を職員とも話し合い、段階に応じたホームとしての指針を作成してほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の緊急時対応研修や、ホーム内独自の緊急時対応研修を定期的に研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回ほど消防訓練(総合)訓練を実施し、昼夜の想定訓練を実施している。しかし、地域と方々と一緒に訓練をできていない。	年2回(22年6月と21年11月)の昼夜想定総合訓練を実施している。自衛消防団組織がある。備蓄はまだ準備されていない。地域との協力関係を築き、訓練に参加してほしいと願っている。	運営推進会議で民生委員や区長にお願いし近隣の方々の協力を得られるようにしてほしい。月に1回自主訓練を行い避難方法を職員・利用者が身につけてほしい。備蓄の準備もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、個々のプライバシーを守り、尊重している。時には勝手に他室入室してしまう方もいるが、自室誘導、他者様のお部屋であることを説明する。	家族面会時は居室またはホールが良いのかを統一したり、家族との散歩で遠慮なく話してもらえる環境を作っている。同性介助等でも意見が出たが現在は折り合いがついている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日に全員の希望が叶わないが、その日、その時の様子を見ながら利用者様の思いや希望を叶えている。お手伝いしたいと希望がある時は、テーブルを拭いてもらったり洗濯ものたたみをしていただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大事にして、時々外出願望が強い場合は、車を借りてドライブしたり、買い物と一緒にいく。またのんびり一日過ごしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方は見守りしたり声かけし促す。理容・美容は家族とともに外出時にしている。中には、ホームで依頼したプロの方に来てもらいホーム内で、理容・美容えおしてもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと数人の利用者様で昼食準備・盛り付け・配膳・後片付けをしている。	献立の決められている宅配業者を利用している。食べたいものの希望は外食や朝食で叶えている。朝食の材料は一緒に買物に行っている。職員は利用者とテーブルを囲んで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食に関しては、献立をスタッフで栄養面などを考えている。昼食・夕食は業者と契約し、栄養面なども計算されている。また、便秘予防として、朝食事にヨーグルト又はキャベツの塩もみを提供し、水分管理(1日0以上)提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア以外にも、一日最低一回のカテキン使用にてうがいを行い口臭予防も行い、毎晩、義歯をポリドントを洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントを取り、利用者様の排泄パターンを把握しその方に合わせたケアを行っている。	排泄チェック表を参考に誘導をしたり、適切な排泄支援をしている。法人の排泄支援勉強会に職員は出席している。自立の人にも確認し、不快感の無い失敗しないケアをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、便秘日数のチェックし、食物繊維や水分、運動を日中に心がけている。腸内環境の事を考え、オリゴ糖の活用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴で利用者様の状態を観察し、利用者様に聞いて、入浴をして頂いている。	声掛けの時の希望・状態にもよるが、夜間入浴者が4人いる。継続した生活支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は、安眠して頂けるようにしている。居眠りされている利用者様に対しては声かけし、自室で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自立の方は、スタッフ見守りのもと、フォルダーから出して頂き、一緒に確認し、投薬し、他に手を出してしまう危険のある方は、スタッフが取り出し、一緒に確認し、一人づつ対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は、外気浴をしたり、買い物に利用者様と行ったり、四季おりおりで行事を行い遠出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の様子を観察する事で、一緒に買い物に行ったり、車がある時はドライブ、暖かい日には散歩などを行っている。	4月と10月には家族と一緒に外出が計画されている。クリスマス会や新年会にも家族等の参加がある。日常的な食器類を買いに行ったり、散歩・庭の野菜作り等で外に出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の所持金を把握し、ノートに支出記入して頂いている利用者様がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて電話をしてもらっているが、時間帯によって翌日にして頂くこともある。スタッフの意思で年賀状を家族へ送らせていただくが、本人の手紙などを出せていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただくため、季節の花を飾ったり、夏には、家庭菜園をし、収穫し、調味している。	日当たりのよいところに居室が並び、共有空間からも庭を見ることができ、反対側にも駐車場からの来客を見ることが出来る窓がある。テーブルが3つに分かれていて、職員が利用者の間に入って食事が出来る。不快な臭いが無く明るく気持ちが良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時のテーブル、TVの前にはソファを置き、和室には炬燵を置いている。また、部屋は個室である。利用者様に好きな場所で好きなように過ごしていただいている。また、外には、ベンチを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人と家人の意見を取り入れ、家具の配置を決めた。新たに持って来たものについても同様。使用して見て、危険がある場合、本人と相談し変更した。	ベッドのみホームが用意している。たんすや椅子・棚が置かれている。家族の写真が飾られ、身だしなみ用の日用品やカレンダーが掛けられ、なじみのある居室作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの情報収集と、先入観にとらわれることなく、いろいろな事やってみて、その人が好んでやる事にスタッフ同士で情報交換している。		